

JIM-NET 便り

2024 9月号

発行：2024年9月27日

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C
電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية



目次

- バグダードのスタッフ紹介～ラナ・ムハンマド・アルマーディ～ P2
- JIM-NET のイラク小児がん患者への支援 20 年 (リカア・アルカザイル) P4
- イラクにて 2003～2004 年 (西村陽子) P6
- シャーム応援募金へのご協力をありがとうございました。(斉藤亮平) P7
- Coffee for Peace !第 4 弾 / 『チョコ募金』 デザイン発表 P8

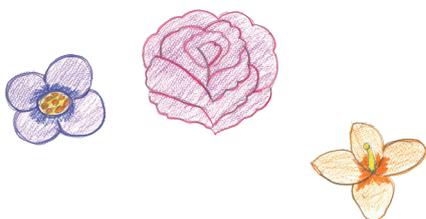
JIM-NET

20!

バグダードの スタッフ紹介

ラナ・ムハンマド・アルマーディ

バグダード事務所では、日本にも来日経験があるアブサイドとともにスタッフのラナがJIM-NETが支援する中央小児教育病院で働いてくれています。ラナは、病室や院内学級での子どもたちの心のケアや患者家族からの相談業務の対応などを行い、患者や患者家族からの信頼も厚いスタッフの一人です。



ラナ(右)とアブサイド(左)

Q. 自己紹介をお願いします。

A. 私の名前はラナ・ムハンマド・アルマーディです。私は、パレスチナ人としてイラクのバグダードで生まれました。父(アブサイド)と共に、JIM-NETのスタッフとして中央小児教育病院で子どもたちやその家族のケアを行っています。私には3人の子どもがおりますが、夫と長女(20歳)はスウェーデンに住み、二女(11歳)と長男(10歳)はバグダードで私と一緒に暮らしています。

手工芸とガーデニングが好きで、家の中でもたくさんの植物を育てています。人を助けることが好きで、JIM-NETで仕事が出来るととても嬉しいです。そして何より一番好きなのは、家と子どもたちです。



入院中の子どもに絵本の読み聞かせ

Q. パレスチナ人としてイラクで生きているわけですが、パレスチナ人であることから、多くの辛い経験もしたと聞いています。

A. はい、小学生の時からたくさん辛い思いをしました。私がパレスチナ人であることから、小学校でいじめられました。イスラエルの占領に対するインティファダ(一斉蜂起)を揶揄され、「石を投げて身を守ろうとする野蛮なやつだ」と言われました。悲しかったけど、家族は「気にしないことだ、むしろ誇りを持ちなさい。石なしには何も建てられないだろう、我々にとっては自分自身の国を守るための大切なものだ」と教えてくれました。

そして一番苦しかったことと言えば、夫が宗派や国籍の違いで殺害予告の脅迫を受け、そのためにイラクを離れてスウェーデンに移住せざるを得なくなり、現在も別々に暮らしていることです。

Q. 病院での支援活動を通して、どのような時に「やってよかった」とか「大変だ」と感じますか？

A. まず、患者の子どもたちが初めて病院に訪れた時と、その後で表情が変わっている様子が分かると嬉しくなります。最初は緊張して、泣いたり帰りたいと言ったりする子どももいるけれど、院内学級で一緒に遊んだり、色々話したりできるようになると、その子どもと関わってきてよかったなと感じます。そして、JIM-NETの医療資材等の支援を病院に提供できた時は嬉しいです。病院側で供給

できないものを JIM-NET が調達しているので、大事な支援なんです。そして、患者の子どもたちが私を見つけた時に、抱きついてくるときは嬉しいですね。やっぱり私は、子どもが好きなんだと思います。

一番つらいのは患者の死です。愛情を持って接していた子どもたちが、亡くなる前に私に会いたい、手を握ってほしいと頼まれたことが過去に何回かありました。手を握りながら、私には何もできないもどかしさ、つらさ、痛み、悲しさでいっぱいでした。

Q. バグダードの病院を訪問した際、入院中の男子ととても嬉しそうに話しているのが印象的でした。

A. 彼の名前はムハンマド（14歳）、ヒッラという町の出身で5人兄弟の末っ子です。彼のお父さんは高齢かつ病気を患っていて、病院に見舞いに来ることができません。ムハンマドもつらい治療を余儀なくされていましたが、それを乗り越え、この日は帰宅してようやくお父さんに会える!という時だったのです。私もずっと彼をサポートしてきたので、その知らせを聞いて嬉しくなったのをよく覚えています。



入院中のムハンマド君を訪ねて

Q. 病院の敷地内に時々木を植えていると聞きましたが、どういった思いで植えているんですか？

A. 私は患者の子どもたちの心の中に希望を植えたいと常に思っています。そこで、子どもたちが木のように成長し、その成長を一緒に見たいという思いから子どもたちと木を植えるようになりました。子どもたちの思い出にも残るし、病院には治療のためだけに来るのではなく、自分が植えた木の成長を見たり、世話をすることが病院に来る目的の一つになればいいなと思っています。



病院の敷地に植えた木々

Q. パレスチナでは昨年10月以降、戦争により4万人を超える人が亡くなっています。また、パレスチナだけでなく、至る所で戦争や争いが起こっています。今、思うことや皆さんにお伝えしたいことなどあったら、聞かせてください。

A. パレスチナ、それは私にとって兄弟そのものです。この状況に私たちパレスチナ人の心は涙で溢れています。戦争が無くなってほしい!と叫びにも近い願いでいっぱいです。子どもたちが切り刻まれ、血まみれになっている光景を思うと、胸が張り裂けそうで、心が痛いです。どうかパレスチナ人に寄り添い、力尽きそうな人々を支援し、爆撃と戦争を止めさせて欲しいと私は世界の皆に伝えたいです。流血を止めてくださいと。全ての戦争を止め、全ての人々が自分たちの権利を守り、誰も他者の権利を奪わないことこそが、この世界を平和にするのではないのでしょうか。全ての人々は自分たちの国で暮らす権利があり、安全と安定を奪ってはいけません。私にとっての平和は、流血と殺戮が終わることです。私たちは互いを愛し、尊重しなければならないし、宗教や習慣の面でも尊重し合わなければならないでしょう。そして、子どもたちが豊かに成長するためにも、平穏で落ち着いたある文化的な社会が作られることを願って止みません。



JIM-NETの イラク小児がん患者への支援20年

リカア・アルカザイル（イラク人医師・JCF国際スタッフ）



2004年、イラク戦争が終わった直後のイラクの病院には、患者の治療のための薬はありませんでした。患者家族が自分で薬を見つけ、買ってこなければなりませんでした。2002年に設立された私が勤めていたモスルの小児がんセンターは、少しずつ患者さんが増えていましたが、バグダードでサルマ先生から学んだ治療方法は、薬が無いためできませんでした。そこでフランスの教会から寄付を受け、必要な薬を調達していました。そのような中で、モスルのサダム病院でJIM-NETのスタッフに出会いました。私は病院内を案内しました。それまで13年間続いていた経済制裁で、薬はもちろん、携帯電話、インターネットもありませんでした。お金も無く、市場に出ている治療薬は質が悪く、信頼できるものではありませんでした。初期の頃は、ヨルダンから薬を買ってきてもらっていました。

この頃、私の診ていた患者にラナ・ジャマールという女の子がいました。絵や詩に才能がある子どもでした。「私はもうすぐ死にます。私の絵で他の子どもたちを助けてください」と彼女は口にしました。私はラナちゃんをバグダー

ドのサルマ先生の病院に送り、診ていただきましたが、1週間後に亡くなってしまいました。このラナちゃんのストーリーからJIM-NETが始まり、『ラナ・サポーター』の由来にもなっています。

JIM-NETが担っている大切な役割の一つに、2004年から開催しているJIM-NET会議があります。医療統計を集積し、医療の向上を目指し、問題点を発表する場です。私が深く関係しているバグダードの小児福祉教育病院だけでなく、バスラ、モスル、クルド自治区の病院から医師たちが集まり、イラク全体で小児がん患者について情報を交換する場です。病院によって証明できるデータは様々で、病院ごとのチームワークが強化されました。会議では、日本の医師によって治療法がアップデートされ、私自身も日本で学んだ最新治療であるCAR-T細胞治療（注①）について紹介するなど、イラクと日本の小児がんの研究や治療にあたる医師たちの大切な場として開催されています。

JIM-NETが発足して初期の頃は、ヨルダンの首都アンマンにあるキングフセインがんセンターで何回も感染症対策のトレーニングを実施しました。しかし、参加した看護師のトレーニングに対する意識や関心が低く、大きな成果は得られませんでした。2018年には、エジプトの57357病院でイラクの看護師40人が研修を受けたプロジェクトもありました。この研修は、バスラ、バグダード、モスル、アルビル、スレイマニアの病院から看護師が選抜され、イラク中央保健省とクルド自治区保健省、JIM-NETが協力して実施されました。当時の研修を受けた看護師や医師たちからは、また同様の研修を開催してほしいという声があがっています。

小児がん病院 エジプト 57357
期間中にイラクから看護師40名を研修 2018~2019





振り返れば、JIM-NET は様々なことに取り組みました。2010年バスラで、院内学級に通っていたアヤちゃんに義足を贈りました。2017年、イスラム過激派組織IS（イスラム国）が台頭してきた際は、モスルに緊急支援も実施しました。大きなプロジェクトでした。2019年からJIM-NETハウスで開始した院内学級、患者家族の宿泊、心理社会的支援の活動もイラクでは斬新なものでした。2020年の新型コロナウイルス感染拡大の時には、クラウドファンディングで寄付を集め、モスル、アルビル、バグダード、バスラの病院にマスクやアルコールなどの感染対策のための物資を送っています。他にも、シリア難民支援でキャンプにいる妊婦さんや乳幼児をサポートしていることも有意義なものです。

2006年から続いているチョコ募金も、医薬品支援を継続するためのすばらしいアイデアだと思います。最近では政府から供給される薬も変わってきましたので、絶えず支援内容を見直ししていく必要があります。



感染対策グッズをイラク各地に配布



義足を贈ったアヤちゃん（中央）とサルマ先生（右）

現在、以前に比べるとイラクの情報は開かれています。政治の汚職は至るところにあり、現地でのNGO活動は難しくなっています。しかし、JIM-NETの医薬品支援は継続していただきたいですし、イラクの医師たちもJIM-NETと協力して将来に繋げていきたいと思っています。かつて、鎌田實先生がイラクの人々に語りかけてくれた言葉は今も私たちの心に残り、それが今でも皆の希望を繋いでくれています。私たちは政治社会的な状況を見極めながら、今後もイラクと日本で協力し合っていけることを願っています。

注① 患者自身の免疫細胞であるT細胞に遺伝子改変を行い、白血病細胞やリンパ腫細胞への攻撃力を高める治療法。



イラクにて 2003～2004

西村陽子 (アラブの子どもと仲良くする会)



バグダードに届けた抗がん剤 (約80万円分)
マーゼン先生と薬剤師

2003年夏、多国籍軍による攻撃が終わって2か月後にバグダードに入った。空爆で破壊された建物や戦車、アザーン(礼拝の呼びかけ)の代わりにホテルの発電機の轟音が鳴り響き、灼熱の空き地で大人と子どもがサッカーに興じる姿が印象に残った。市内の病院や施設の玄関ドアには、世界中の支援機関のステッカーがずらっと貼られていた。病室に行くと「何を持ってきてくれたのか?写真だけ撮って帰るのか?見世物じゃない」「日本はなぜアメリカのイラク攻撃を止めてくれなかったのか?」日本人と分かると厳しい言葉を患者家族から投げかけられ、重症の赤ちゃんを目の前に突き付けられたこともあった。

私は、アラブの子どもとなかよくする会のイラク人スタッフと、湾岸戦争後から関わりのあったマンスールこども病院(俗称、現在の

子ども福祉教育病院の前身)小児がん病棟のサルマ医師に会いに行った。「たくさんのNGOが来たけど、何も届いていない。あなたは何かできるの?」と眼鏡の向こうから厳しいまなざしで問いかけられた。「薬さえあれば救える子どもがいる」という彼女たちの言葉を受け、隣国ヨルダンに向かった。現地の人たちの協力を得て、日本からの寄付金で抗がん剤を調達し、バグダードの病院に運んだ。すぐさま投薬の準備が始まり、サルマ医師が病室の子どもたちを紹介してくれた。その側で、マーゼン医師が「この病棟の必要量の1か月分だ(約80万円相当)」とつぶやいた。砂漠に水を一滴落とすがごとし。片時も離さず身に着けていた腹巻の中の寄付金がわずかになると、安堵の気持ちともうできることがなくなったという無力感におそわれた。当時は、日本の支援関係者の間でも「イラクの医者のがん治療の知識があるのか?」「横流しされる」「高価な抗がん剤より、下痢や肺炎の薬で大勢を



病室の子どもたち(バグダード)

救うべき」「劣化ウランとの関連は実証されていない」など、抗がん剤の支援に否定的な意見も少なくなかった。しかし、小児がんの患者は増え続け、イラク国内で治療できるようにならなければ、多くの貧しい患者たちに未来はない。「自分たちの力で治療できるようになるまで力を貸してほしい」という医師たちを支えていくには、専門性と資金力が必須の課題であり、小さな団体一つではどうにもならないのは明らかだった。2004年、サマーワに自衛隊が派遣された頃から、治安が悪化し、イラク国内での活動が難しくなった。まもなくJIM-NETが立ち上げられ、ヨルダンを拠点にイラクへ医薬品を送り、

義理チョコで支援を呼び掛けた。思いを同じくする者が力を寄せ合うことでより大きな支援ができる、その現場に私は立ち会うことができた。



交流で訪問したバグダードの女子
小中学校の職員室の先生方と



シャーム応援募金へのご協力を ありがとうございました。

齊藤亮平 (海外事業担当)



シャームと家族

「アハレ——ン! (ようこそ)」

シャームの家を訪問すると必ず、シャームたち家族の声
が玄関先に響き渡ります。「来てくれてありがとう!」と
毎回そんな言葉をかけられています。JIM-NET が支援
する子どもたちやその家族の中でも、とりわけ厳しい状
況が続くシャーム一家ですが、多くの人たちの支えで今
も命と生活を繋ぐことができます。

～シャームと家族を取り巻く 3つの「厳しい状況」～

シャームは、2020年に混乱が続くシリアからイラク北
部アルビルへと逃れてきました。滞在許可のための申請
を依頼していた弁護士がパスポートと滞在許可申請のた
めの代金を持って逃走し、無一文になったシャーム一家
のイラクでの生活に更なる悲劇が襲います。

そのひとつは「シャームの病気」です。2022年に血
液のがんが見つかり、治療を開始しました。当初、アル
ビルのナナカリ病院での治療はうまくいっていたと思われ
ましたが、体調が徐々に悪化し、2023年秋には骨髄移
植を受ける必要があることが分かりました。医師からは
当初、インドかトルコでの骨髄移植が推奨されましたが、

高額な医療費やシリア
難民であることから、総
合的な判断で渡航は叶
いませんでした。また、
腎臓にも悪性である可
能性が高い腫瘍が見つ
かっています。

そして「経済的な困
窮」もシャーム一家の



ヒワ病院での治療

生活を苦しめています。シャームの父は日雇いの仕事を
していましたが、シャームの体調が悪化してからは、家
でも病院でもシャームに付き添うために仕事をするのがで
きません。家賃、食費、その他生活にかかるお金がなく、
パンとお茶だけしか買えない状況になることも珍しくあり
ません。

加えて「社会からの孤立」もシャーム一家の生活に影
を落としています。

アラビア語を母語としないクルド自治区の人々の中で、
アラビア語を母語とするシャームと一家は、病院や居住
地域で孤立しがちです。シャームの弟や妹たちも金銭的
な理由と言葉の問題で学校に通うことができていません。

～多くの人に支えられて 始まった骨髄移植～

イラク国内では難しいとされていた特殊な骨髄移植で
すが、医師たちの連携やシャームを応援してくれる支援
者の皆さまのお陰で骨髄移植に伴う治療も含めて、スレ
イマニヤのヒワ病院で今年の6月に行うことができました。
まだまだ慎重に治療を進めていかなければなりません
が、骨髄移植を終えることができたことを、シャーム本
人と家族はとても喜んでます。

これまでシャーム一家を支えるために、病院への交通
費に加え、食費や家賃補助など生活に係る費用をJIM-
NETが一部負担してきました。これがなければ、シャ
ームの治療や家族の生活がどこかで途切れていたかもしれ
ません。シャームと家族は、会う度に「日本の皆さんに
“1000のありがとう”を伝えてほしい」と口にしていま
す。皆さんからの応援に改めて感謝いたします。今後も孤
立しがちなシャーム家族に対しての心のケアなどを行って
いきます。

◆ご寄付 合計778,741円

シャーム応援募金 64件628,741円
昨年度のシリア難民貧困患者支援クラウドファンディング
より 150,000円

◆支援額 合計778,741円

'23年11月～'24年8月までの生活費支援 372,000円
治療のための滞在費・検査代 406,741円

今回のCOFFEE for PEACE!の絵は、シャームが描きました。ぜひ
お申込みいただき、直接ご覧いただければ幸いです。

Coffee for Peace! 第4弾 ♥ 完成しました!

9月12日(木)から
受付スタートです。

コロナ禍の初期にご縁をいただいたカルディコーヒーファームの温かなご協力により、ドリップコーヒー「Coffee for Peace!」も第4回目のご紹介となります。

イラクとシリアの子どもたちの絵が大きくレイアウトされ、可愛いプチギフトとしてもご好評をいただいています。特に、現地の子供たちはチョコ缶同様にドリップコーヒーのパッケージにお友達の絵がプリントされることに大変励まされ、そして嬉しい様子です。



今回は皆さまにも親しんでいただいているシリア難民のシャームちゃんの絵で制作を進めました。チラシやドリップコーヒー2袋と同封されたスペシャルカード、DM



葉書などは日本国際学園大学経営情報学部ビジネスデザイン学科4年生の菊地祥真くんがデザインをしてくれ、かわいくて素敵な広報印刷物が完成しました! 来春には社会人となり、就職先も決まっている菊池くんには、授業やアルバイトの合間に様々な注文に応えていただき、心から感謝しています。こうして沢山の人の思いがこもった Coffee for Peace!、お楽しみいただければ幸いです。

♥ 『チョコ募金』デザイン発表 ♥

今年も本格的にチョコ募金の準備が始まっています。

皆さまには、いち早く今年のデザインをお届けいたします♥ 今回も子どもたちが可愛い絵をたくさん描いてくれました!

お申込みの受付は、
11月25日(月)からを
予定しております。

今年も子どもたちの可愛い絵と
美味しい六花亭のチョコレートを
どうぞお楽しみに!



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット
Facebook、Twitter、Instagramもぜひご覧ください。『JIM-NETで検索』

募金・サポーター会費はこちらへ➔

